

安行小の環境学習の紹介

ヤゴ救出大作戦 菊次 哲也

毎年、安行小学校では「ヤゴ救出大作戦」を行っていません。単なるヤゴ採りではありません。プール清掃前に、プールに育ったヤゴを救出して、そのヤゴをクラスで育てたり、学校ビオトープに放したりしています。

一昨年、二年生が救出したヤゴは1007匹でした。しかし昨年は、たったの1匹しか見つかりませんでした。その理由は鯉釣り大会のために、プールに放流した鯉です。鯉がほとんどのヤゴを食べ尽くしてしまったのでした。鯉は雑食で何でも食べ尽くしてしまいます。そういう点では、鯉が多すぎる用水や川の生態系は豊かとは言えません。

ヤゴがたった一匹になった後、悩みました。ヤゴを守るために鯉釣り大会を中止にするか、鯉釣り大会のためにヤゴをあきらめるか。鯉を放流した環境委員会では、鯉釣り大会も行つて、ヤゴを育てる方法はないものか考えてみました。

プールにヤゴを育てる



「生けす」を作ってみてはどうか。「生けす」のなかに救出したヤゴを入れて

育て、「生けす」の周りに鯉を放流するという考えです。

「生けす」には中古の蚊帳を使うことにしました。中古の蚊帳を五百円で手にいれました。環境委員会で支柱をつけて



「生けす」を張り、ヤゴのエサになるアカムシ（ユスリカの幼虫）が育つように木の枝や葉を投げ込みました。春には4年生とエコクラブの子どもたちが「生けす」の周りのヤゴを採り「生けす」の中に移しました。その後、鯉を放流しました。鯉釣り大会も例年通り行い、その後に二年生がヤゴ救出大作戦を行いました。結果は、ギンヤンマが121匹。シオカラトンボ、アカトンボのヤゴが94匹となりました。



一昨年、ギンヤンマはたった2匹でした。ギンヤンマが増えたのが今年の特徴です。支柱に止まってギンヤンマが産卵できたことが、その理由です。

興味のある子どもたちはヤゴを育て、トンボになるのを観察し、いのちの誕生の不思議さ、素晴らしさに感動しています。